

# 作業療法学科

病院、企業、海外派遣などで  
専門性を生かした活躍ができる  
作業療法士を育成します

作業療法とは、年齢や障がいの有無に関わらず、その人らしい生活ができるよう支えるアプローチです。対象者のやる気を引き出し、作業や環境を調整し、対象者が「したい」作業=生活行為が「できるよう」支援します。本学科では、生活者としての人に対する深い洞察力、社会的な課題の解決力等を磨き、多様な場面で専門性を生かした活躍ができる作業療法士を育成します。



## 3つの特色

1

人と社会の仕組みを  
科学的に検証する

基礎医学や心理学などの人、生活行為、社会環境に関する知識や技術を網羅的に修得できます。

2

海外を知り、日本を学ぶ  
海外の連携大学との交流や海外研修を通じて、世界の作業療法を知ることができます。

3

大学院進学を見据えて  
研究する

本学大学院（作業療法科学域）と連携し、ハイレベルな作業療法学の研究を経験できます。

### ●取得可能な資格・免許

- 学士（作業療法学）
- 作業療法士国家試験受験資格

国家試験に合格することで作業療法士の資格が得られます。作業療法士の免許取得後は、日本作業療法士協会の認定作業療法士や専門作業療法士を目指すことができます。

### ●作業療法士の仕事

その人らしさを発見し、生かすことが仕事

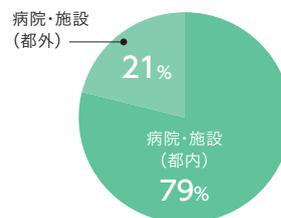
作業療法士は、人々がその人らしく生活できるようサポートすることをしています。そのため、人々がしたいこと、期待されていることができるよう、心理的支援、環境分析、運動分析などを包括的に検討し、最適な支援を選択しています。

### ●国家試験合格状況（2022年実施）

資格名	受験者	合格者	合格率	全国※
作業療法士	42名	41名	97.6%	83.8%

※既卒者を含む

### ●進路情報（2022年実績）



### ●主な進路先

東京都立病院機構、東京都リハビリテーション病院、医療法人社団幸隆会多摩丘陵病院、公益財団法人永寿総合病院柳橋分院、東京女子医科大学病院、日本医科大学付属病院、医療法人社団慈誠会、医療法人社団保健会東京湾岸リハビリテーション病院、IMSグループ医療法人三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院

# CURRICULUM

## カリキュラム

### ▶ 4年間の流れ

#### 1年次

幅広い教養と基礎知識を他学科と一緒に学びます

基礎・教養・基盤科目の他に基礎的な専門教育科目を学び、多職種連携学習を開始します。

#### 2年次

作業療法過程の基礎を学びます

基礎的な専門教育科目と作業療法評価・計画・実施の過程の基礎を学内と学外で学びます。

#### 3年次

臨地実習を通して、身につけた知識と技術の融合を目指します

学外の実習施設で行われる臨地実習で、作業療法過程と多職種連携を学びます。

#### 4年次

海外研修、卒業研究、実習などの機会を活かして学び、課題解決力を培います

計22週間の臨地実習を終え、国家試験や卒業研究などに取り組みます。

### ▶ 授業紹介

#### 2・3年次

#### 作業療法総合演習

伊藤 祐子 教授、井上 薫 准教授

現場で働く作業療法士と協力し、口頭試問と実技試験を行います

2年生と3年生と一緒に作業療法の臨床過程を通じて、基礎医学の知識、生活行為の知識、社会環境の知識の統合を図ります。

#### 2年次

#### 基礎作業学実習

石橋 裕 准教授

あらゆる「生活行為」を分析し、知識や技術を身につけます

化粧、手工芸といったあらゆる「生活行為」を分析し、最適な支援ができるための知識や技術を身につけ、人々の生活行為を支援します。

#### 4年次

#### 住環境整備学

橋本 美芽 准教授

住環境整備の基礎知識の修得を目指します

作業療法士の実務において、担当患者や障がい者の生活環境を指導する場合に求められる、住宅改造(住宅改修)と福祉用具活用の支援技術を学びます。

### ▶ PickUp 授業



教員が担当した患者記録をもとに、最適な生活支援方法を検討している様子。

#### 日常生活活動学実習

ボンジェ・ベイター 教授

人々が生活行為を満足に行えるようになるための手法を身につける

この授業では、障がいのある対象者にとって意味のある(大切な)作業を満足に行えるようになるための作業療法を学びます。

世界の作業療法士は、「people are healthiest when satisfactorily engaged in the meaningful activities of everyday life」を信念にしています。

この実習を通して、生活を構成する作業(=日常生活)の工程に分けて分析し、人々の作業の様子を観察評価することができるようになります。そして、上手く作業ができない部分に対して、作業療法の支援を検討し、学生同士で実習を行います。学生が考えた支援をクラスで演技・プレゼンテーションし、メリットとデメリットをディスカッションして学んでいく、とても面白い授業です。

# CURRICULUM

カリキュラム

## ▶ 臨地実習

計 22 週間の学外実習で幅広い作業療法学を学ぶ

「作業療法初期臨地実習」は 4 週間、「作業療法プロセス臨地実習」は 10 週間、「作業療法総合臨地実習」は 7 週間と、段階的に臨地実践能力を育てます。

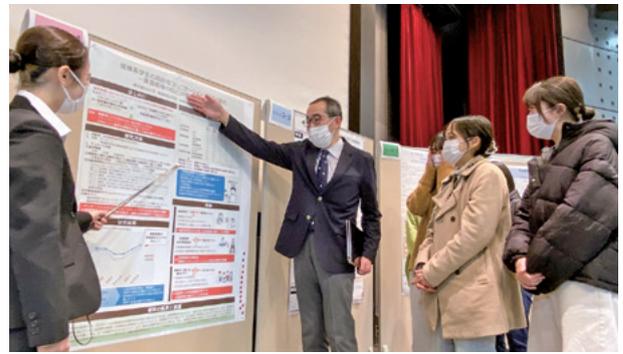
	前期						後期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次											▶	
3年次							▶			▶		
4年次	▶											
	地域作業療法実習（期間中 1 週間）											

## ▶ 臨地実習後セミナーと卒業研究

国内外の学会形式を取り入れた、先駆的アクティブラーニングの実施

作業療法学科では、アクティブラーニングを積極的に取り入れています。7 週間の作業療法総合臨地実習では、関心のあるテーマ（例：地域包括ケアシステムと生活支援など）を発見し、それぞれ実習指導者の指導も仰ぎながら学びを深めていきます。その成果は、実習後セミナーの中で学会と同様にポスター発表として披露されます。

卒業研究の特徴は、人と作業の関係を追求した発表が多い点にあります。卒業研究は、作業療法学科の教員研究室に配属され、各自テーマを見つけ発表するか、大学院生や担当教員の研究を一部担い発表しています。学部生の中で大学の大学院進学が決定した学生は、大学院の修士課程を見据えた研究を行うこともあります。



教員を交えてディスカッションする様子  
右下は、短期留学生と合同の卒業研究発表の様子

## 在学生の声



作業療法学科4年  
池野 風佐さん  
(2023年度現在)

笑顔を忘れず、心で寄り添う  
作業療法士になりたいです

私の目標は、心と体にアプローチする作業療法によって、患者さんに生きる喜びを感じてもらえる存在になることです。臨床の現場で支援を進める際には、患者さんの気持ちの理解が大前提。だからこそ、普段から幅広いジャンルの本を読むなどして、心を見る目を養っています。専門的な技術の修得には難しい部分もありますが、少人数体制によって一体感の強い仲間が存在がモチベーションになり、もっと勉強したいと思えるほど充実感があります。今後の本格的な実習では、積極的に患者さんと対話をしながら、作業療法の実践力を磨きたいと思っています。

### ● 池野さんの3年次の時間割

	月	火	水	木	金
1限	老年医学		身体領域の作業療法学演習	高齢領域の作業療法学演習	精神領域の作業療法学演習
2限					
3限	発達領域の作業療法学演習	作業療法学研究法	作業療法総合演習II	生活支援機器学演習	認知機能作業療法学演習
4限					
5限		内部障害作業療法学			

「作業療法総合演習II」は、臨床を想定した演習型の授業。そのベースになっているのが、2年次の「基礎作業学実習」です。お化粧や料理などの生活行為のプロセスや必要な道具、最適な支援技術を学び、効果の分析も行いました。個別または集団に向けた作業療法の提供方法を学んだことで「作業」の本質を理解でき、現在のさまざまな演習に活かされています。



## 作業療法学科生 座談会

### [学生×教員 座談会] 作業療法学科の魅力とは？

東京都立大学の作業療法学科は、東京都にある国公立大学で唯一の作業療法学科です。その独自の魅力について、学生と教員に語り合ってもらいました。



作業療法学科  
伊藤 祐子教授

専門は発達障害作業療法学、医療・福祉工学。心身に障害がある子どもの発達支援と、成長後の地域生活を見越した支援のための学問領域であり、感覚統合理論や特別支援教育の作業療法、生活支援機器開発、家族支援なども含まれる。



作業療法学科  
宮本 礼子准教授

専門は脳機能解析学、高次脳機能障害学、認知作業療法学、脳機能障害支援学など。学生の意見に基づき動画制作課題の考案など、学生が主体的に学べる取り組みにより、2020年に「第1回東京都立大学ベストティーチングアワード」を受賞した。



作業療法学科  
田所 花梨さん

・入学試験種：一般推薦  
・出身高校：東京都立上野高等学校  
・今後に向けて：  
高齢領域や発達領域など、現時点では興味のある領域ばかりのため、臨地実習をとおして自分の適性を見きわめていきたいです。



作業療法学科  
田形 真弥子さん

・入学試験種：一般選抜後期日程  
・出身高校：頌栄女子学院高等学校  
・今後に向けて：  
将来的には精神領域に特化した作業療法に興味がありますが、まずは医療機関で幅広く経験を積みみたいと考えています。

### 日本の作業療法を支えてきた伝統ある学科

**伊藤**：都立大の作業療法学科は、作業療法士の養成課程として国内で3番目に設立された都立の教育機関が始まりです。それが1969年ですので、とても歴史のある学科なんです。

**宮本**：現在は総合大学の強みを活かして、1年次には幅広い教養を身につけ、2年次以降に専門的な勉強に取り組みます。学部学科や学年を越えた交流によって学習効果を高めるなど、工夫を凝らしたカリキュラムや学習スタイルに特徴がありますが、2人はどのような思いを胸に入学したのですか？

**田所**：私は高齢者施設でのボランティア経験から、福祉分野に興味を持って入学しました。難解な医療系の科目もありましたが、作業療法士独特の視点で患者さんに接する点にやりがいを感じますし、仲間と教え合いながら理解を深め、自分の可能性を切り拓いていける感覚があります。2・3年次の学生と一緒に受講する演習授業では、後輩にわかりやすく説明できるようになった自負もあります。正確に理解できていないと教えられませんので、大きな自信になっています。

**田形**：私は出産・育児後も働き続けるためには専門資格が役に立つと考え、人を支える作業療法士に興味を持ちました。また、美術や手芸など、自分の好きなことを活かせる可能性も感じたのが作業療法でした。入学後は、対話や観察によって患者さんに必要な支援策を探る練習を重ねて視野が広がり、日常生活やアルバイト先などでも対応力が向上した実感があります。グループワークでも、相手が何に困り、どう対処すべきかを考える習慣ができた点に成長を感じています。

### コロナ禍でもたくましく成長する学生たち

**田形**：コロナ禍では不安もありましたが、SNSやZoomなどで同期と交流できたことが救いでした。人を支える仕事に就くという目標を持った思いやりのある学生ばかりで、なおかつ少人数の学科で一体感があるので心強かったですね。

**田所**：入学当初はオンライン授業ばかりで戸惑いもありましたね。ただ、その分、時間を有効活用できるので、何事もポジティブに捉えて行動するよう心掛けました。

**宮本**：逆境でも柔軟に視点を変えて物事に取り組む姿勢は、将来患者さんを支援する際にも役立ちますね。

**伊藤**：たくましく、しなやかに行動できる学生がいる一方で、不安を抱える学生もいるものですが、仲間の存在を力に変えて成長してくれることが何よりの喜びです。そして2人は、そろそろ就職活動の準備に取りかかる時期だと思いますが、実務経験を積むことで新たな目標ができることもあれば、例えば脳機能などを専門的に学ぶために大学院に進む選択肢もあります。学生1人ひとりの興味関心に応えられる多彩な教員陣も本学科の強みですので、まずは直感を信じて、心のおもむくままに卒業後を思い描いてほしいと思います。

**宮本**：将来に向けては、現場で働く自分をどれだけ具体的にイメージできるかがポイントですね。イメージするには知識や経験も必要ですが、例えば実習で発達領域に特化した経験を積めるのも本学科の特徴です。また、医療・福祉分野以外の選択肢もありますので、今後は総合大学のメリットを活かしたキャリア支援も充実させていきます。

(2022年度現在)